

東京都若年性認知症生活実態調査の結果（概要）

東京都では、若年性認知症（65歳未満で発症した認知症をいう。）の本人及び家族を対象に、生活の状況や医療・介護等に対する要望、希望する今後の過ごし方などについて、訪問してお尋ねする「東京都若年性認知症生活実態調査」を実施しました。この度、調査結果がまとまりましたので、お知らせします。

1 調査の概要

（1）調査の目的

東京都若年性認知症生活実態調査は、若年性認知症本人及びその家族に対して訪問調査を実施し、その生活実態及び認知症高齢者とのニーズの違い等を把握することにより、都における若年性認知症への支援に向けた施策の検討の基礎資料とするものです。

（2）対象者

平成19年度に実施した「東京都認知症専門医療機関実態調査」を通じて明らかになった若年性認知症の診断・治療を行っている医療機関の協力を得て、本調査への協力について、患者本人又はその家族の同意を得た都内在住の若年性認知症の患者とその家族で、患者本人及びその家族に告知してあるものを対象に、訪問調査を実施しました。

（3）調査期間

平成20年2月下旬から同年3月まで

（年齢は平成20年1月1日現在、その他、特に記載のないものは調査日現在とする。）

（4）調査方法

調査員による訪問調査

（5）調査票の構成

調査票は、家族または本人票、家族票、本人票、調査員票の4つにより構成しました。

（6）回収状況

調査の同意を得た50世帯に訪問調査を実施した結果、47世帯から調査票を回収しました。

なお、各調査票の回収状況及び原因疾患は次のとおりです。

(各調査票の回収状況)

家族または本人票 47 標本 (家族回答 46 標本 + 本人回答 1 標本)

家族票 46 標本

本人票 35 標本 (本人回答 27 標本 + 家族代弁 8 標本)

調査員票 47 標本

(47 人の原因疾患)

アルツハイマー病 41 名、前頭側頭型認知症 (ピック病) 6 名

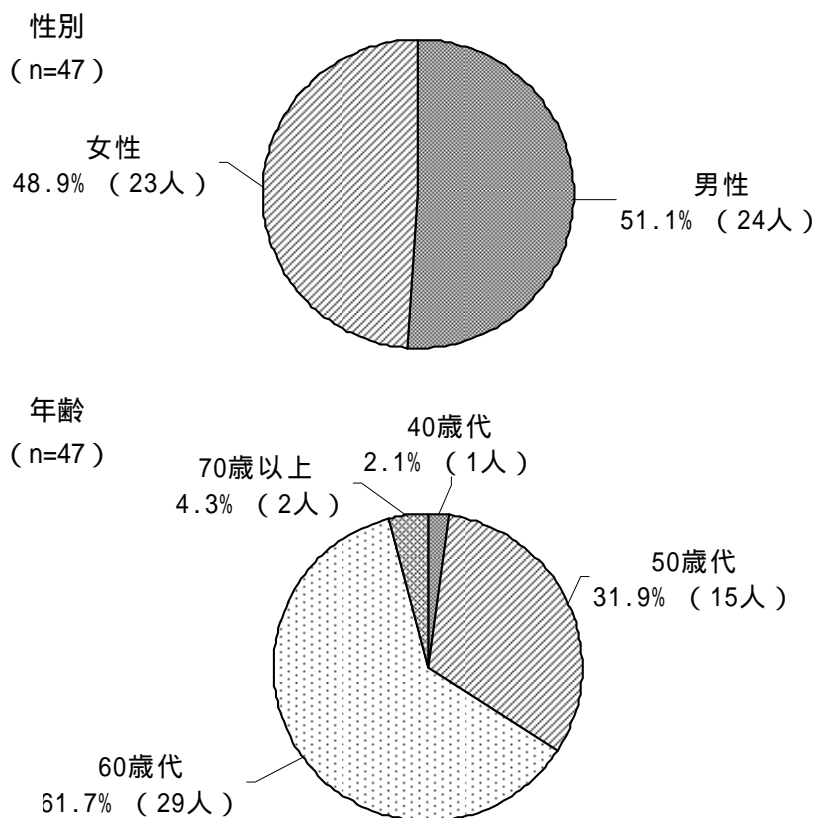
なお、本報告書におけるアルツハイマー病及び前頭側頭型認知症 (ピック病) は、それぞれ 65 歳未満に発症したものをいう。

2 調査結果の概況

(1) 本人の属性 (「家族または本人票」から)

47 人の性別を見ると、「男性」が 51.1% (24 人)、「女性」が 48.9% (23 人) でした。平成 20 年 1 月 1 日現在の年齢を見ると、「60 歳代」が 61.7% (29 人) と多く、「50 歳代」が 31.9% (15 人)、「70 歳以上」が 4.3% (2 人)、「40 歳代」が 2.1% (1 人) でした。また、平均年齢は 61.6 歳でした。

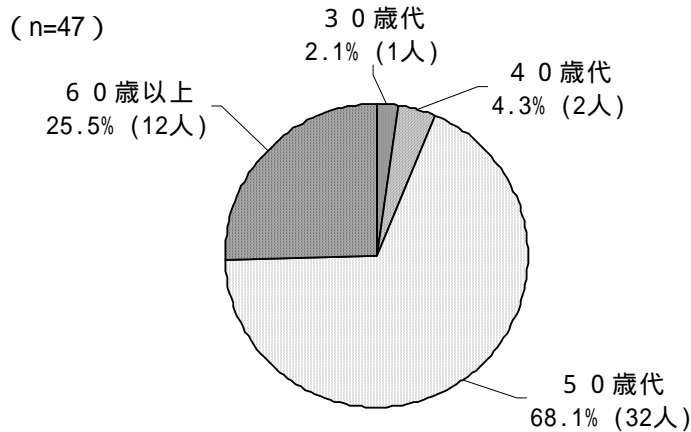
【本人の性別・年齢】



(2) 認知症ではないかと周囲が気づいた頃の本人の年齢(「家族または本人票」から)

認知症ではないかと周囲が気づいた頃の本人の年齢は、「50歳代」が68.1%(32人)と最も多く、次いで、「60歳以上」が25.5%(12人)となりました。また、平均年齢は56.3歳でした。

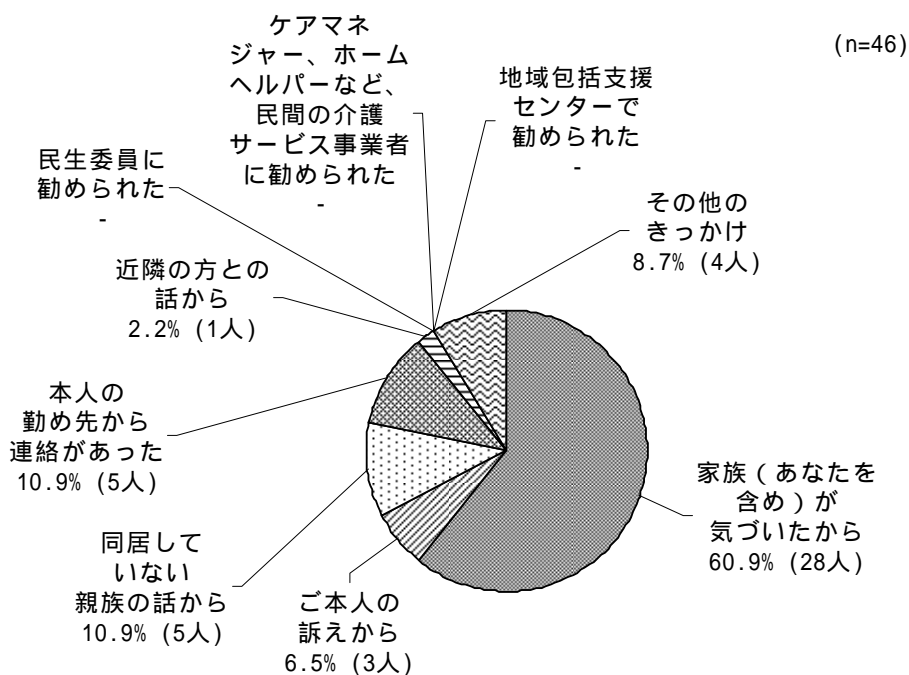
【認知症ではないかと気づいた頃の本人の年齢】



(3) 最初に相談・受診する直接のきっかけとなったこと(「家族票」から)

本人の様子の変化や症状について最初に相談・受診する直接のきっかけになったこととして、「家族(回答者を含め)が気づいたから」が最も多く、60.9%(28人)に達しました。次いで、「同居していない親族の話から」、「本人の勤め先から連絡があった」がそれぞれ10.9%(5人)でした。「ご本人の訴えから」は、6.5%(3人)にとどまりました。

【最初に相談・受診する直接のきっかけとなったこと】



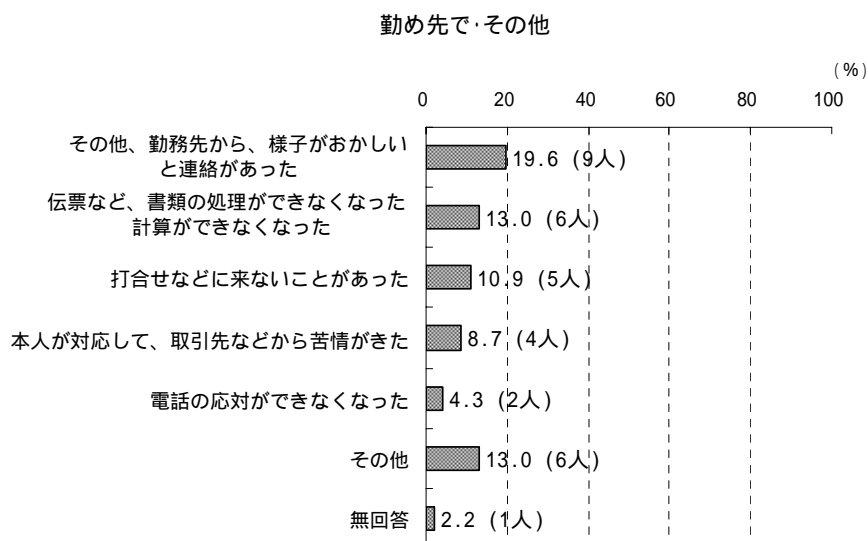
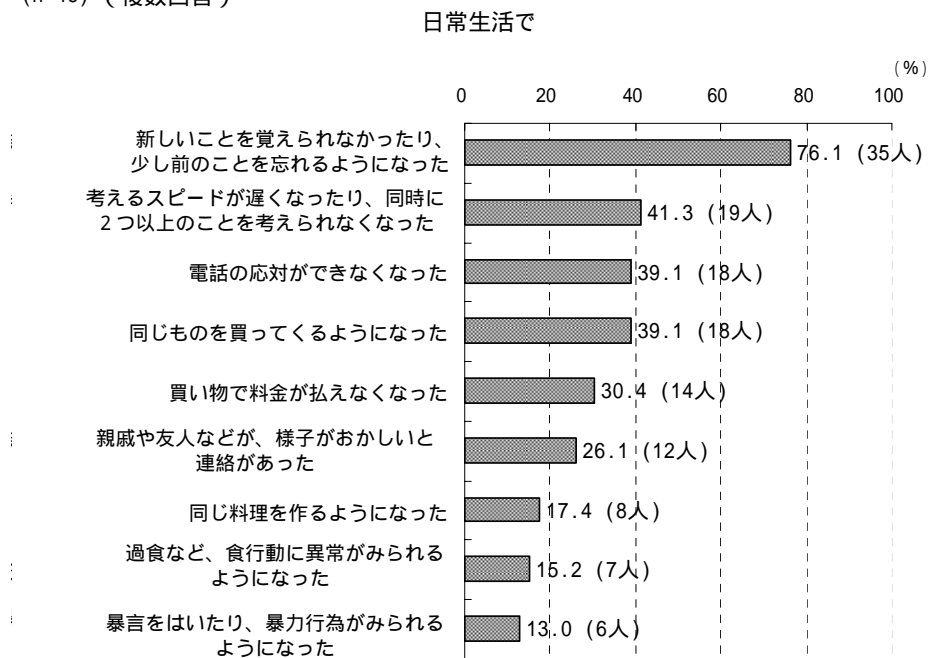
(4) 最初に気づいた本人の変化や、これまでを振り返って認知症の初期の症状・できごとだったと思うこと(「家族票」から)

最初に気づいた本人の変化や、これまでを振り返って認知症の初期の症状・できごとだったと思うことは何かを尋ねたところ、日常生活では、「新しいことを覚えられなかったり、少し前のことを忘れるようになった」が76.1%(35人)で最も高く、次いで、「考えるスピードが遅くなったり、同時に2つ以上のことを考えられなくなった」が41.3%(19人)でした。

勤め先では、「その他、勤務先から、様子がおかしいと連絡があった」が19.6%(9人)見られ、その具体的な内容として、「会議で書記が務まらない」、「取引先から苦情があった」、「解雇された」などが挙げられました。

【最初に気づいた本人の変化、認知症の初期の症状・できごと】

(n=46) (複数回答)

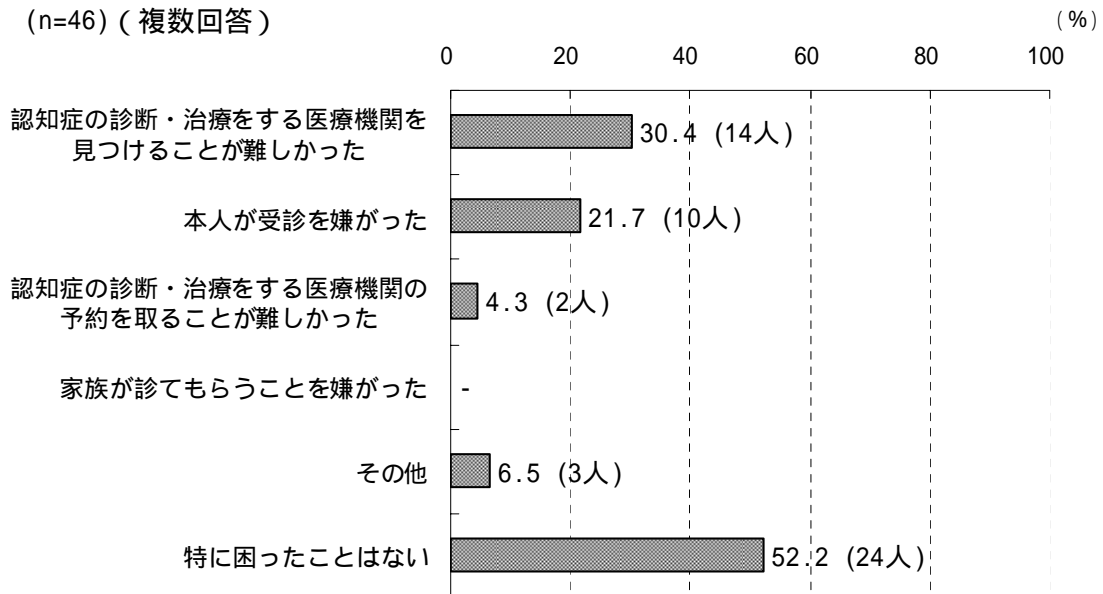


(5) 認知症の診断や治療をしてもらうまでに、困ったこと(「家族票」から)

認知症の診断や治療をしてもらうまでに困ったことについて尋ねたところ、「特に困ったことはない」が52.2%(24人)、「認知症の診断・治療をする医療機関を見つけることが難しかった」が30.4%(14人)、「本人が受診を嫌がった」が21.7%(10人)でした。

【認知症の診断や治療をしてもらうまでに、困ったこと】

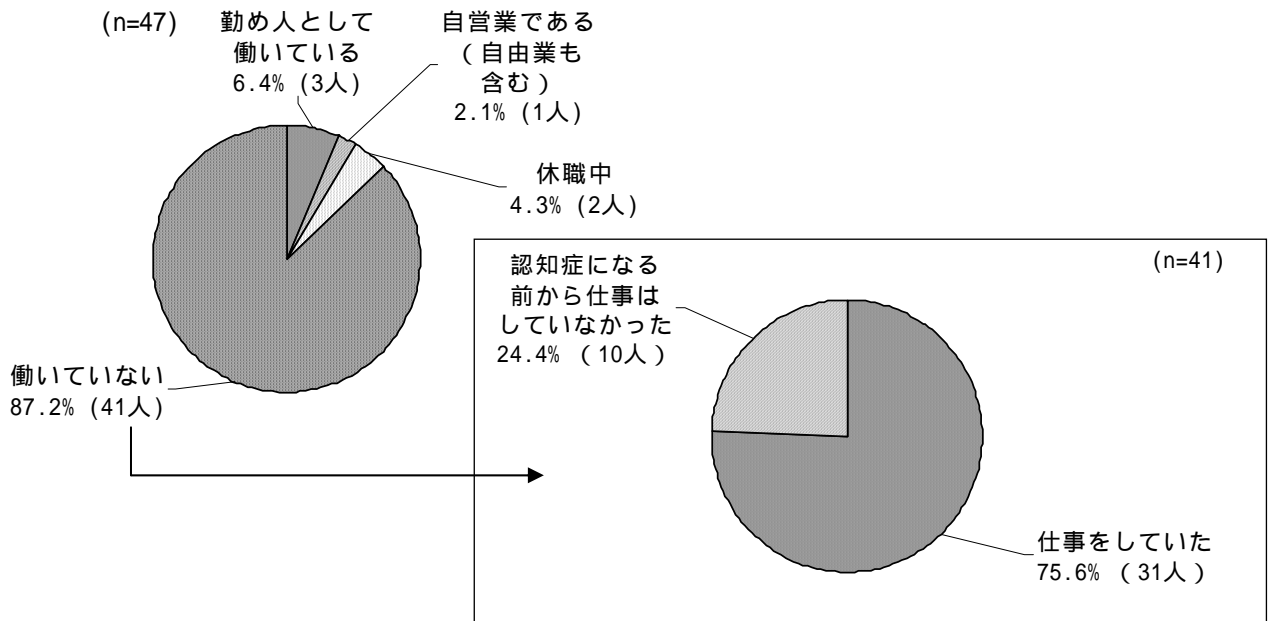
(n=46) (複数回答)



(6) 本人の仕事の有無(「家族または本人票」から)

本人の現在の就業状況について尋ねたところ、「働いていない」が87.2%(41人)でした。そのうち、75.6%(31人)は、認知症になる前は「仕事をしていた」と回答しています。

【本人の仕事の有無】

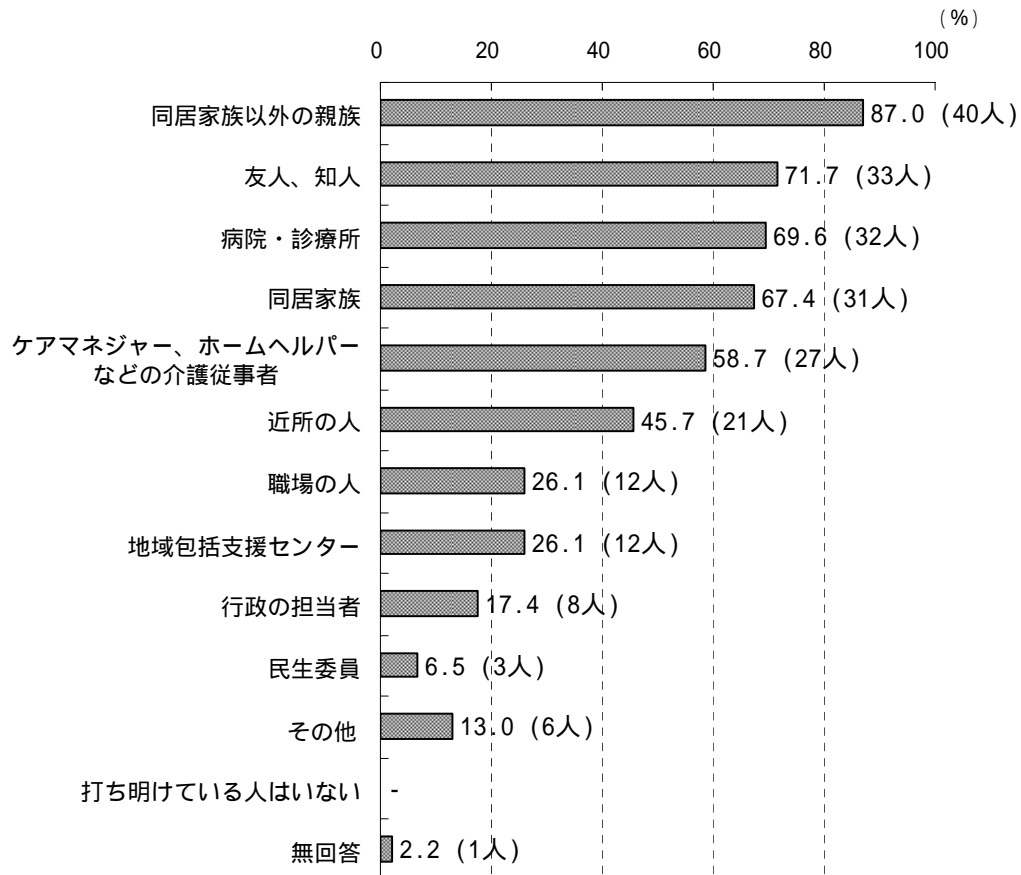


(7) 家族が、本人が認知症であることを打ち明けている人(「家族票」から)

家族に対し、本人が認知症であることを誰に打ち明けているかと尋ねたところ、「同居家族以外の親族」が87.0%(40人)で最も多く、「友人、知人」が71.7%(33人)、「病院・診療所」が69.6%(32人)、「同居家族」が67.4%(31人)、「ケアマネジャー、ホームヘルパーなどの介護従事者」が58.7%(27人)と続いています。

【本人が認知症であることを打ち明けている人】

(n=46) (複数回答)

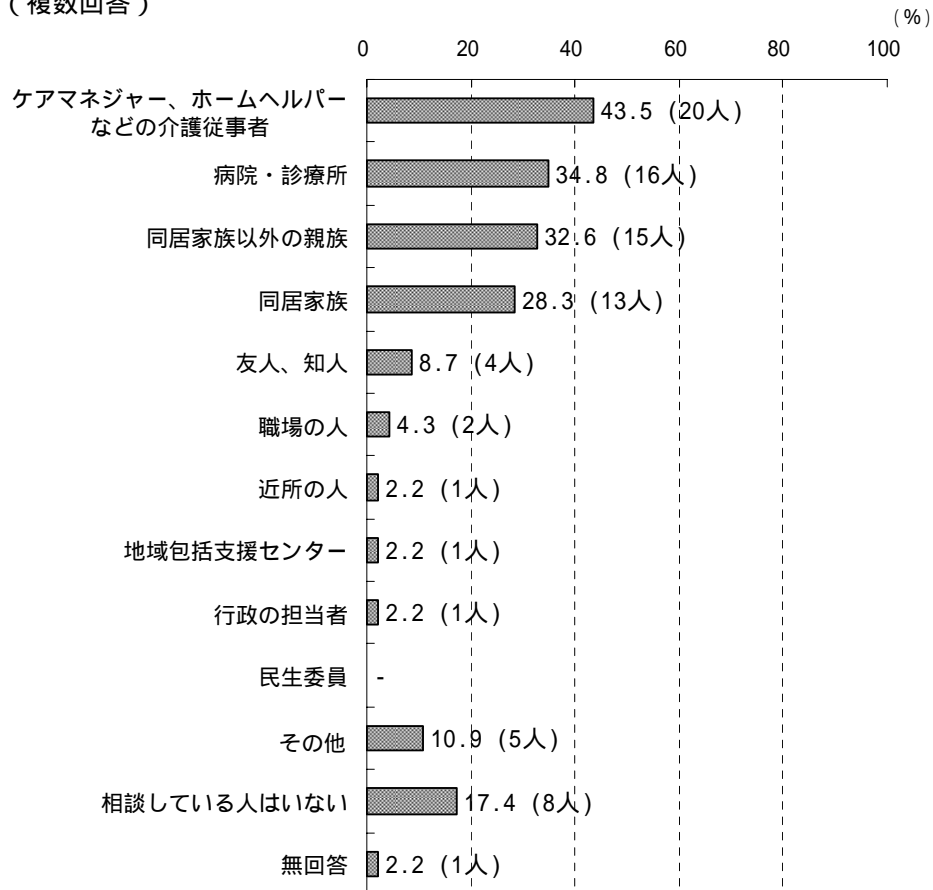


(8) 毎日の介護のことで、よく相談している人(「家族票」から)

家族に対し、毎日の介護のことでよく相談している人について尋ねたところ、「ケアマネジャー、ホームヘルパーなどの介護従事者」が43.5%(20人)と高く、「病院・診療所」が34.8%(16人)、「同居家族以外の親族」が32.6%(15人)、「同居家族」が28.3%(13人)でした。「相談している人はいない」は17.4%(8人)でした。

【毎日の介護のことで、よく相談している人】

(n=46) (複数回答)



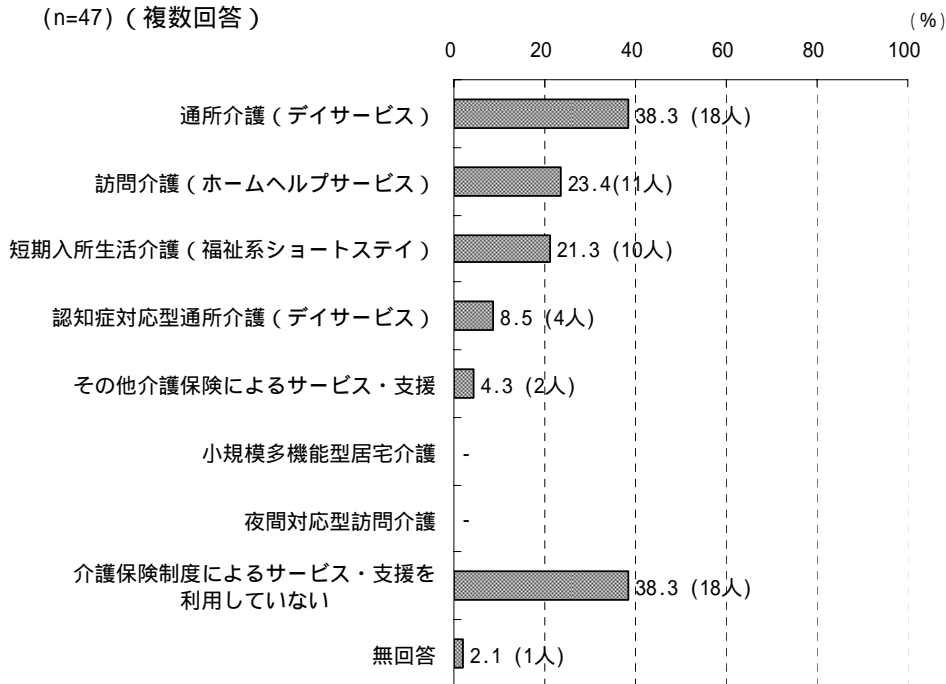
**(9) 現在利用している公的サービスや支援制度の利用状況(「家族または本人票」から)
介護保険制度によるサービス・支援**

介護保険制度によるサービス・支援では、「介護保険制度によるサービス・支援を利用していない」が38.3%(18人)と高い割合を占めました。

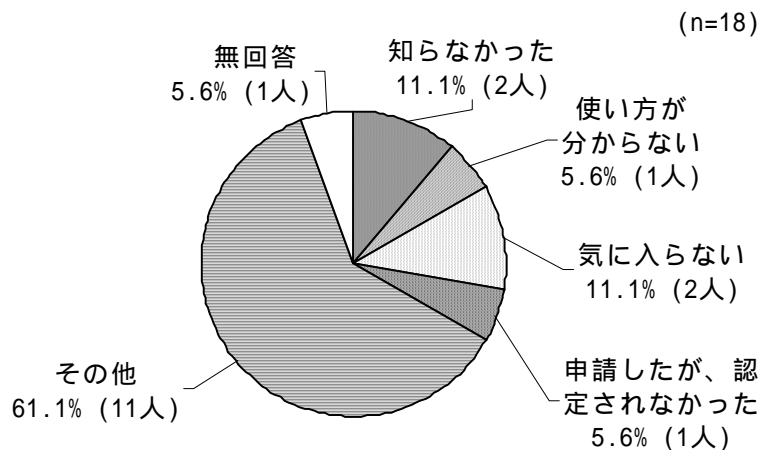
サービス・支援を利用している場合、「通所介護(デイサービス)」が38.3%(18人)と最も多く、次いで、「訪問介護(ホームヘルプサービス)」が23.4%(11人)、「短期入所生活介護(福祉系ショートステイ)」が21.3%(10人)でした。

【介護保険制度によるサービス・支援】

(n=47)(複数回答)



介護保険制度による支援・サービスを利用していない理由では、「知らなかった」、「気に入らない」がそれぞれ11.1%(2人)と比較的多く見られ、「その他」では、「必要がないから」が多く挙げられました。

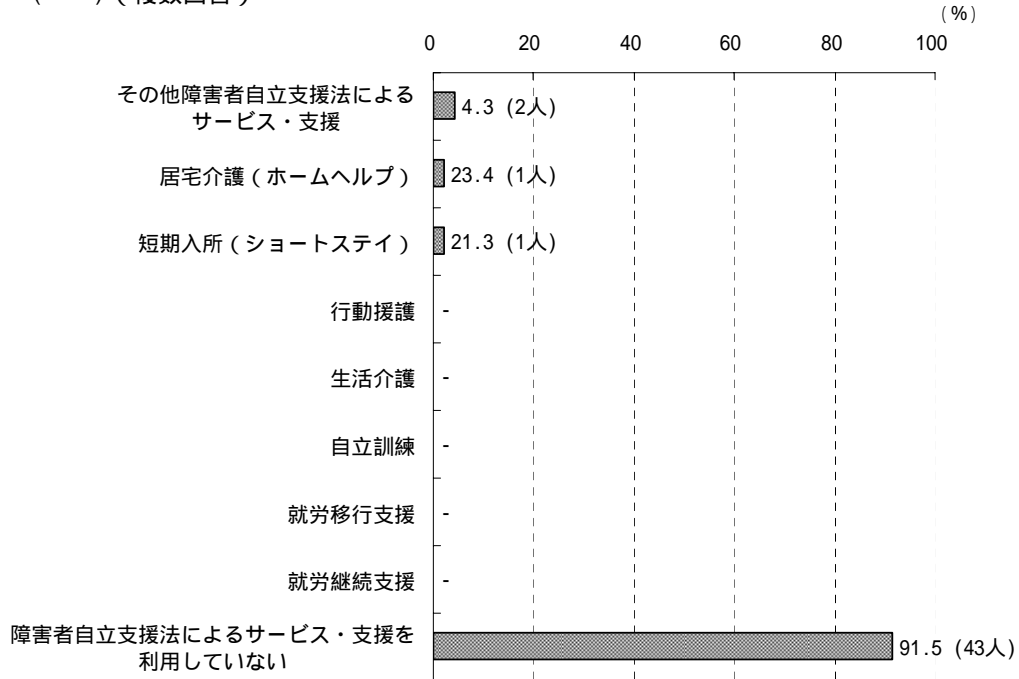


障害者自立支援法によるサービス・支援

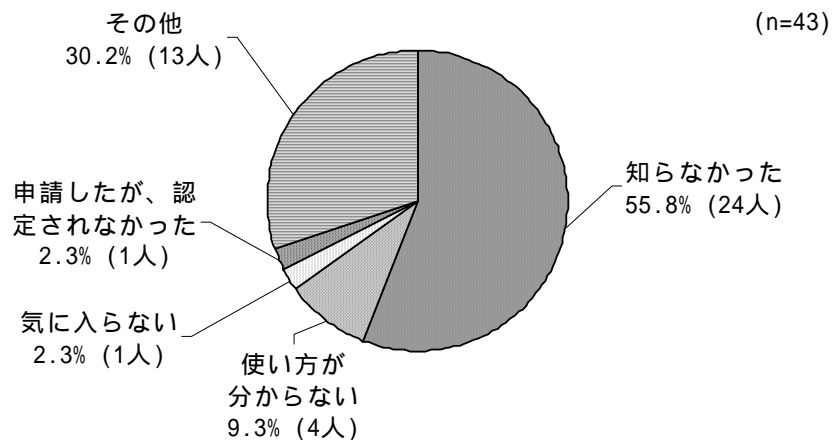
障害者自立支援法によるサービス・支援では、「障害者自立支援法によるサービス・支援を利用していない」が91.5%（43人）で、最も多い結果となりました。

【障害者自立支援法によるサービス・支援】

(n=47)（複数回答）



障害者自立支援法によるサービス・支援を利用していない理由としては、「知らなかった」が55.8%（24人）と多く、次いで「使い方がわからない」が9.3%（4人）でした。「その他」では、「介護保険で利用しているから」、「まだ必要がない」が多く挙げられました。



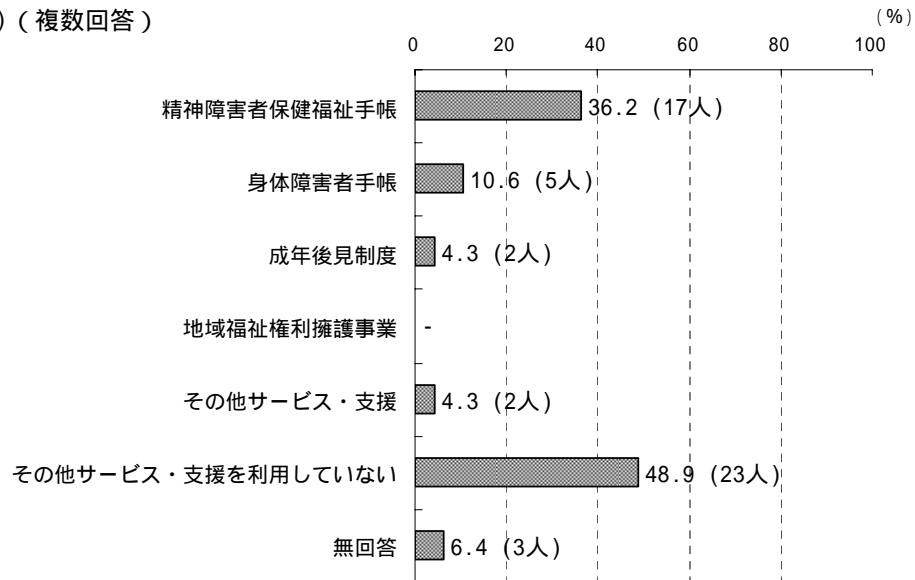
その他サービス・支援

その他サービス・支援をみると、「その他サービス・支援を利用していない」が48.9%（23人）で最も多く見られました。

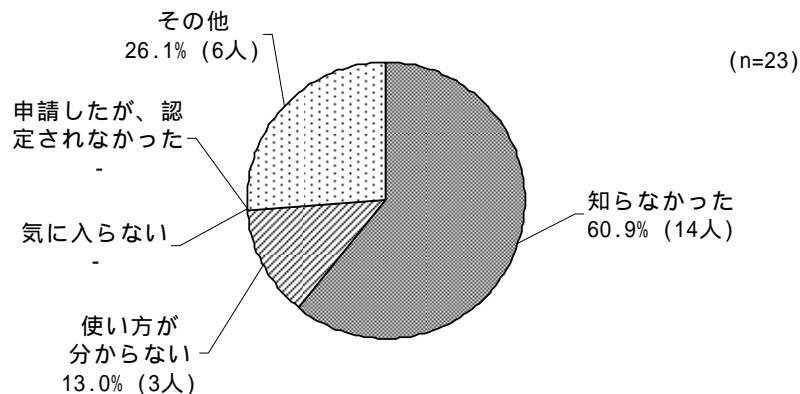
その他サービス・支援を利用している場合、「精神障害者保健福祉手帳」の利用者が36.2%（17人）で最も多く、次いで「身体障害者手帳」が10.6%（5人）でした。

【その他サービス・支援】

(n=47) (複数回答)



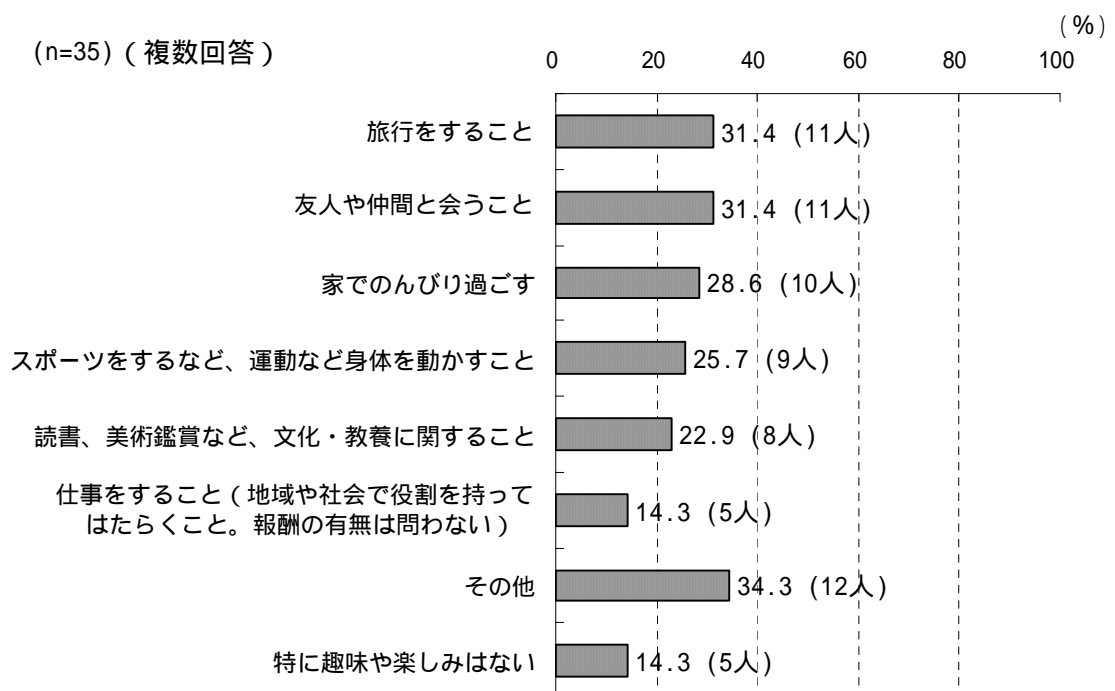
その他サービス・支援を利用していない理由は、「知らなかった」が60.9%（14人）と過半数に達し、「使い方がわからない」が13.0%（3人）でした。「その他」では、「まだ必要がない」、「会社との兼ね合い」などの回答がありました。



(10) 今後やりたいこと(現在やっていることを続ける場合も含む)('本人票'から)

本人に対し、現在やっていることの継続を含め、今後やりたいことは何かを尋ねたところ、「旅行をすること」、「友人や仲間と会うこと」がそれぞれ31.4%(11人)と多く見られました。次いで、「家でのおんびり過ごす」が28.6%(10人)、「スポーツをするなど、運動など身体を動かすこと」が25.7%(9人)でした。「その他」では、「散歩」が多く挙げられ、他に「孫や親戚とのふれあい」、「趣味を楽しむ(木彫りやお茶など)」などの回答がありました。

【今後やりたいこと】



3 その他

この他に、本人の認知症の病状の程度(軽度、中等度、高度)別に、本人の今後の希望する過ごし方(自由回答)、外出目的や付き添いの程度などの生活状況、本人や家族の不安、要望(自由回答)などをまとめています。